

高等教育のためのヨーロッパ空間に関するボローニア宣言

説明

この文書は EU の学長会議連合ならびにヨーロッパ大学協会によって準備された。それはつぎのものを含んでいる。

ボローニア宣言ならびに進捗のフォローアップ過程での情報の意味と意義についてのコメント

宣言の文書

もっと詳細な情報が得られるインターネットのアドレスのリスト

著者達はヨーロッパ委員会にこの文書に対するその支援と好意に対して感謝する。

ボローニア宣言

説明

ボローニア宣言は、高等教育システムの構造を収束するように改革するための 29 カ国による協定である。

- 宣言の目標を達成することに尽力し、その目的で政策を調整することに専念するという 29 カ国で署名された。
- ヨーロッパのレベルで全体的な収束をもたらすために自らの高等教育システムあるいは諸システムを改革するために署名に合意した国によって自由に引き受けられる付託行為である。ボローニア宣言は国の政府あるいは高等教育に課せられる改革ではない。それぞれの国や高等教育機関がボローニア宣言から感じられる圧力も、しだいに共通の特性を無視し変化の主流の外部に留まっていることからのみ引き起こされることである。
- ボローニアプロセスは収束をもたらすことを狙ったものであり、ヨーロッパの高等教育を「標準化」したりあるいは「一様化」したりすることを目指しているのではない。
- この宣言は共通するヨーロッパの問題に共通するヨーロッパの解答を追究することを目指している。そのプロセスでは価値の違いがあるにしても、ヨーロッパの高等教育システムは高等教育の拡大と多様化、卒業生の雇用可能性、主要な分野での熟練の不足、私立ならびに多国籍教育などに関連している共通する内的小および外的な挑戦に直面している。宣言は同格の改革、両立するシステムそして共通のアクションを認めている。

ボローニャ宣言は、政治的言明だけではなく、活動プログラムへ結束した関わりである

宣言で明らかにされている活動プログラムは、明確に定義されている共通のゴールであり、期限であり、一連の明確な目標のである。

- 明確に定義された共通のゴール：市民の雇用可能性と移動性を促進するために高等教育のヨーロッパ域内を創設しヨーロッパの高等教育の国際競争力を高める。
- 期限：高等教育のヨーロッパ空間は 2010 年には完成されているべきである。
- 一連の明確な目標：
 - またディプロマ代替を実現することによって域内で判読でき比較できる共通の枠組みの採用
 - 3 年を下回らないで労働市場に関連した第一学位ですべての国に学部と大学院レベルで導入
 - さらに生涯学習活動に関連した単位互換制 ECTS(European Credit Transfer System)
 - 比較可能な基準と方法をもった質保証がヨーロッパ規模
 - 学生(研修生や卒業生も同様)と教師(研究者と高等教育の事務官も同様)の自由な移動を今なお妨げている障害の除去

ボローニャ宣言とヨーロッパ高等教育の世界的規模での競争力

- 高等教育システム(主としてヨーロッパ間)での両立性と比較可能性をさらに推し進めることの次の段階は、宣言が高等教育のヨーロッパの制度の国際的競争力を特に増すことである。どのような文明であれ、その活力と効率性はその文化が他の国に対してアピールする度合いによって測られると述べている。署名参加国はヨーロッパ高等教育システムがヨーロッパの並外れた文化的科学的伝統に匹敵する世界的規模での魅力を獲得できることがその目的であると表明している。
- これらの外的問題について、ボローニャ宣言は本当に新しい道を開きつつある。ヨーロッパの高等教育が(凝集力のある)システムとして世界のほかの地域からの学生にとってもっと魅力的になるために必要なことをもっと表明して、統一のとれたヨーロッパシステムの方向に進むためのもっと多くの理由とヨーロッパの諸機関が学生にとって過去よりもっと決然として大学の世界規模での競争で影響、威信、資産を競うように促すことである。

宣言から実施へ：組織化されたフォローアップの構造とプロセス

- 宣言の目標を達成するために参加した署名参加 29 国は、高等教育機関や協会の協力

のもとに政府間の協力の方法を追究することになる。

- 大臣達は達成された進歩を評価し、執るべき新しいステップに同意するために、ヨーロッパの高等教育諸機関と協会の代表と共に 2001 年 5 月にプラークで再会することに同意した。
- プラーク会議に準備しボローニア宣言の目標を達成するために必要な活動を容易にし調整するために権限をもった特別のフォローアップ構造を設立した。そのフォローアップ構造はつぎのようなことに基づいている。
 - すべての署名参加国の代表からなる諮問グループ
 - 2 年間でボローニアからプラーク(フィンランド, ポルトガル, フランス, スウェーデン), チェコ共和国, ヨーロッパ委員会, CRE および連合までに EU の統括の責任をつぎつぎと担う国を構成するより小さなフォローアップグループである。
 - さらに加えて, 新しい政治的決断がプラークに向けての過程で行われるであろうから, ボローニア宣言へのフォローアップは EU 教育大臣の会合への日程でもある。
- フォローアップの作業はヨーロッパ, 国ならびに機関レベルで進行している。宣言によると高等教育でのヨーロッパ空間を形成するプロセスは変わらない支援と, 監督と, たえず変化しているニーズに適応することが必要である。
 - 一連の調査や研究は, 署名参加国, EU 統括者, ヨーロッパ委員会, 高等教育協会とネットワークの国別担当者の主体性のもとに進歩している。国をまたぐ教育, 教育機関間の接続, 単位制度, 質保証などを扱い, 進歩での次の準備段階として役に立っている。
 - 署名参加国は高等教育システムに関連する領域での法制的改革あるいは政府の活動を考え計画している。集中的な改革が, いくつかのヨーロッパの国々ですでに導入され, 進歩してきている。彼らはより短い研究に, 2 階層構造, 単位システム, 外部評価, さらなる説明責任に連結したさらなる自律性に向かったの意味を与えている。もう一つの傾向は高等教育の異なる構成要素のサブ部分での不鮮明な境界に向けてのものである。
 - 個々の大学は, 高等教育コンソーシアム, ネットワーク, 協議会と同じようにそれぞれの国で, 教育内容の領域で, あるいは機関のタイプにおいてボローニアプロセスの意味を研究し議論している。

ボローニア宣言は、高等教育の共同体が改革と収束のプロセスが成功するのに貢献するように勧誘している。

- 本宣言はボローニア・プロセスが成功するために高等教育共同体の極めて重要な

役割を認めている。それによると政府間協力は高等教育における有能さにおいて非政府ヨーロッパ諸機関とともに当たるといえる。政府は大学が再び積極的に対応し、その努力が成功することに実施面で貢献することを期待している。したがってヨーロッパの未来を形成し、ボロニア・プロセスの開発と実施で極めて重要な役割を演じるのにまたとない機会をもっていることは明らかである。

- 宣言はヨーロッパの高等教育の基本的価値と多様性を特にみとめている。
 - － 必要な大学の独立と自律を明らかに認めている。
 - － 1988 にボロニアでサインされた大学大憲章で定められた基本的原則にはつきりと照合している
 - － 文化、言語、教育制度の多様性の枠組みの中で高等教育にとっての共通の空間を獲得する必要があることを強調している
- ボロニア宣言に含まれている勧誘に応えるために、高等教育共同体は期待され推進しようとしている高等教育のためのヨーロッパ空間がどのようなものであるかを説得性のある仕方では大臣に伝えることができなければならない。大学とその他の高等教育諸機関はこの変化の本質的なプロセスで対象であるよりも推進者であることを選ぶことができる。それらは特に
 - － 出現しつつあるボロニア後の環境に対応して、とくに学士コースが伝統的に存在していなかった制度でのコースを導入することによって、さらに世界中からの移動できる大学院学生のニーズを満たすような修士コースを創設することによって、そのカリキュラムを明確にする
 - － 共同のカリキュラム開発や、共同のベンチャー的な海外や世界規模での移動計画のキー領域でネットワークを活性化する
 - － 個別にあるいは集団でプロセスの次の段階に貢献する
- ヨーロッパ連合学長会議連合およびヨーロッパ大学協会はプラーク会合の数週間前にヨーロッパ大学と他の高等教育諸機関の会議を開催することを計画している。この会議は重要な懸案事項を討議し、高等教育がプラーク会議から何を期待しているかについて大臣にあてたコミュニケを作成する機会を提供することになっている。

2000年2月29日

(西之園 晴夫 訳)